JA YOUTH

# 情熱丸

『情熱』～それは熱き青年の心

2026.8
No. 63

発行者
いわみざわ農協青年部



いわみざわ農協青年部
部長 宮嶋　遼

1月22日に行われた第32回通常総会において、令和8年度事業計画が承認され、新体制での活動を開始いたしました。

昨年を振り返りますと、農作物それぞれの収穫量に関しては平年並みからそれ以上の物もありましたが、偏った天候が品質面でかなり影響を与えた印象が強く、農業の難しさを実感しました。

本年は春先から天候が順調に推移しており、収穫量・品質面ともに期待が膨らむ状況ではありますが、近年話題になることの多い先行き不透明な米価、国際情勢の不安定化に伴う生産諸資材の高騰など、日々の営農や生活において気になる話題は尽きることがありません。これらの動向を注視するとともに、どのような情勢にでも対応できる経営を行っていくことが重要です。

青年部事業に目を向けますと本部事業といたしましては、今年度も各部会において行事を企画・検討し活動してまいります。組織部会においては、3月には日々の作業についてさまざまな知識を身につけてもらえるよう営農セミナーを実施しました。6月の部員親睦会では他支部の盟友やJAの役職員の皆さまとも交流を深めていただけるようミニバレーと焼肉を実施したほか、11月のAMS2026についても同様に盟友に楽しんでもらえる内容を企画・検討していきたいと考えております。事業部会では、本誌『情熱』の発行やホームページ更新、インスタグラム、フェイスブックによる青年部活動の発信・共有を図ってまいります。また、青年部の一大イベントでもあります情熱直送便については今年度も実行委員会を設立し、企画・準備・運営等を担っていただいております。昨年度の反省を生かしつつさらに良いものにしていきたいと考えております。昨年同様、岩見沢から札幌のSTVラジオまでの米俵リレー・直売会の実施、ラジオのリスナーへ向けてのプレゼントを企画しております。さらに昨年より実施しておりますSTV放送会館前でのイベントも実施予定です。地域密着型イベントとして青年部員だけではなく、JA、岩見沢市など各団体や行政にも協力していただき岩見沢市の地域の活性化を図るとともに、消費者の皆さまにいわみざわ産農畜産物のPRを行い、農業への情熱を大々的に伝えていきたいと考えております。

青年部は、横の繋がりを広げながら農業者同士の絆を深め、農業の素晴らしさ、大切さを消費者の方々に伝えていかなければなりません。活動を通じて生まれる多くの出会いを生かし、組織活動の実践で結束力を高め、「安全・安心」な農畜産物を安定して生産していくことが私たちの使命であり、義務だと考えています。その為にも青年部活動の時間も大切に、一緒に盛り上げていきましょう。

最後に、日頃より青年部活動にご理解をいただいておりますJAをはじめ、各関係機関、地域、行政の皆さまに今年度も変わらぬご支援・ご協力をお願い申し上げまして青年部部長就任の挨拶とさせていただきます。

# 「情熱」の発刊に寄せて



いわみざわ農業協同組合
常務理事
**宮　越　祐　二**

青年部機関誌『情熱』の発刊にあたり、ごあいさつ申し上げます。

日頃より青年部盟友の皆さまにはＪＡ事業推進や地域農業の発展に向け、部員皆さまが精力的に活動されていることに対しまして心よりお礼申し上げます。

いわみざわ農協青年部は令和８年度宮嶋部長新体制のもと、積極的な活動を展開されることに期待を寄せているところであります。

青年部は設立以来、農業協同組合運動の実践者として、農業経営の安定と発展、そして地域社会を支える担い手としてさまざまな取り組みを積み重ねてこられました。米俵を背負いタスキをつなぐ「情熱直送便」をはじめ、営農セミナーやＡＭＳなどの研修事業、地域行事への参画や食農教育など、その活動は年々広がりと深まりを見せており、若い力の積極的な挑戦は、組合全体に大きな活力を与えてくれています。

一方で、私たちを取り巻く環境は、資材・エネルギー価格の高止まり、気候変動による生産リスクの増大、人口減少や後継者不足など厳しさを増しています。これらの課題に向き合い地域農業を次の世代へとつなぐためには現場の実態をよく知る青年農業者の声と行動が何よりも重要です。日頃の営農や活動を通じて感じている課題意識や新たな発想に基づく提案はＪＡ運営にとって貴重な羅針盤であり、組合経営を前に進める大きな力となります。

本機関誌「情熱」は部員同士の情報共有であると同時に組合員の皆さまに青年部活動と熱い思いをお伝えする大切な媒体です。その記事や写真から、仲間を思いやる気持ちや地域を良くしたいという強い願いが伝わってまいります。本誌を通じて、青年部の取り組みがより広く理解され、新たな共感と協力の輪が広がることを期待しています。

同じ地域で農業に携わる者として、青年部の皆さまには、これからも大いに議論し、失敗を恐れず挑戦を重ねていただきたいと願っております。ＪＡいわみざわは、皆さまの率直な声に耳を傾け、ともに考え、ともに汗を流すパートナーであり続けたいと考えています。青年部活動が、地域農業の将来像を描くうえでの先導役となることを心から期待しております。

本年は現在のところ、春作業から順調な作業進度となっていることや、気温、降水量ともに潤沢な推移をみせ、各作物、総じて豊作基調となっており収穫期はＪＡ事業の根幹であります集荷対策にもなお一層の期待を寄せているところです。

結びに、本誌「情熱」の発刊に携わられた編集委員をはじめ青年部部員の皆さま、日頃より青年部活動を支えてくださっているご家族や関係機関の皆さまに深く感謝申し上げますとともに、いわみざわ農協青年部の今後ますますのご発展と、盟友一人ひとりのご健勝とご多幸を祈念いたしまして、発刊のあいさつといたします。



# 支部長挨拶

**岩見沢支部**

## 森　洋輔



今年度岩見沢支部長になりました森洋輔です。現在岩見沢支部は三笠班6名、西川班7名、志文班11名、稔班15名の計39名で活動を行っております。

支部事業としては、3月に部員親睦会、6月に支部視察研修を実施しました。支部事業を通して、盟友同士の交流の場、情報交換の場を作れたと思っております。

私自身、青年部に加入して日が浅く、加入当初は知人や友人がほとんどいなかったので不安しかありませんでしたが、青年部の活動を通して少しずつ仲間の輪が広がったことにとても感謝しています。その恩返しをできるよう引き続き支部役員のメンバーや事務局と協力して事業を成功させられるようがんばりますので、盟友の皆さまには積極的に支部事業に参加していただきたいと思います。

今年1年皆さまに楽しんでいただけるよう、また自分自身も楽しむ気持ちを忘れずに全力を尽くしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

**北村支部**

## 池田拓馬



今年度北村支部の支部長になりました池田拓馬です。

現在の北村支部は北村・幌向・大富の3支部が合併をして活動しております。それによって支部の規模は大きくなり、今年度は新入部員1名を迎え北村班・大富班・幌向班の3班体制、42名で活動を行っております。

支部内の活動としては、3月に新入部員歓迎会、6月に支部交流会を実施しました。また、8月には北村班でかっぺ祭への出店、11月には支部研修などを計画しており、北村小学校の食育活動への活動にも取り組んでいます。

本部事業につきましても、北村支部として積極的に参加し、他支部との交流を今まで以上に深めていき、これまで以上に青年部活動を盛り上げていきたいと思っております。

1年間頑張っていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

**栗沢支部**

## 柳谷宏人



今年度、栗沢支部の支部長を務めます柳谷宏人です。栗沢支部では新たに3名の新入部員を迎え、30名で活動しています。

今年度の支部事業としましては、部員親睦会・視察研修・農業PR活動・JA職員や地区理事の方々との交流会を計画しています。共催事業でもあります『くりさわ農業祭』にも参加し、焼き鳥やビールの販売、地元野菜の詰め放題などのイベントを通じて、地域の皆さまとの交流を図っていきたいと考えております。

本部事業につきましても、栗沢支部盟友と積極的に参加し、他支部との交流を深め青年部活動を盛り上げていき、仲間づくりの楽しさや大切さを伝えていきたいと思っています。

皆さまのご協力をいただきながら、全力で活動に取り組んでまいりますので、今年1年間よろしくお願いいたします。

# 令和8年　新入部員紹介



岩見沢支部

## 倉田　涼真（22）

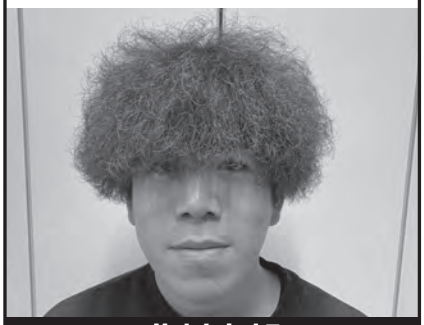
青年部活動を通して、農業についての知識をつけるとともに、さまざまな人と交流を深めれたらいいなと思っています。
これからよろしくお願いします!



岩見沢支部

## 齊藤　　宰（28）

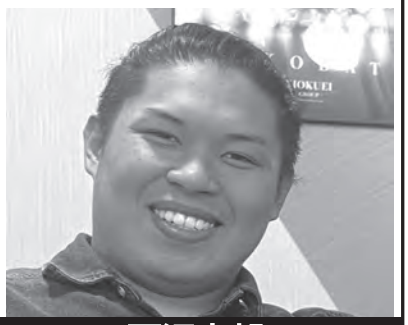
青年部の活動を通して多くの方と交流をし、多くの事を学びたいと思います。これからよろしくお願いします。



北村支部

## 池田　智裕（21）

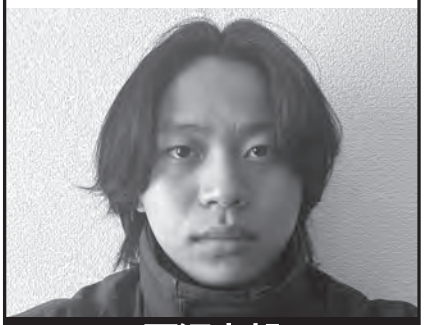
青年部活動を通じて沢山の方と交流していくとともに、農業についていろいろなことを学んでいきたいと思います。



栗沢支部

## 中田　智人（22）

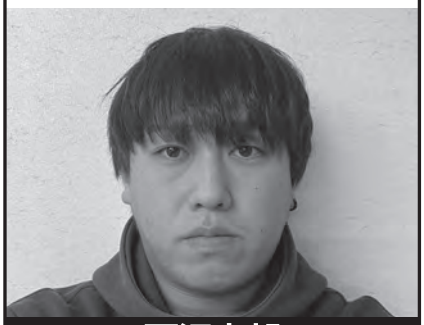
まだわからないことが多いですが、家族や農業者の仲間たちとのかかわりの中からさまざまなことを学び、成長できるよう頑張ります。



栗沢支部

## 東海林 一輝（21）

農業についてわからないことが多いですが、青年部活動を通して理解を深められたらなと思います。イベントにも積極的に参加していきたいと思います。よろしくお願いします。



栗沢支部

## 棚田　涼介（28）

青年部活動で同世代農業者との交流を深めると同時に農業について勉強できたらなと思います。

## 各種QRコード

ホームページ

ポリシーブック

フェイスブック

インスタグラム

# いわみざわ農協青年部

## 私たちの活動を紹介します！

### 若き農業者同士…新しい「仲間」をつくりませんか？

- 沢山の盟友（部員）で活動しています！
- 共に農業の苦楽を分かち合える同志がいます！
- 農業の未来を共に担い、切り拓いていきましょう！

### 営農セミナー



昨年度のテーマは「水稲栽培技術」

### 部員親睦会



昨年はミニバレーボール大会を開催
懇親会は焼肉を楽しみました

### 道外研修



昨年度は九州方面へ

### 情熱直送便



ＳＴＶラジオへ米俵リレー！

岩見沢～札幌間を米俵を背負って走るリレーを通じ
地元農産物や食育活動をPR！

### ＡＭＳ



盟友たちとの視察研修
昨年は北興化学工業株と
ホクレン滝川種苗センターに伺いました

# 情熱直送便




令和7年度情熱直送便は例年同様、情熱直送便実行委員会を設けた中で支部役員・本部役員・JA事務局で検討を重ね、盟友の皆さまにも協力をいただいたことで盛会のうちに終えることができました。

情熱直送便は私達が作った農畜産物を米俵に詰めてバトン代わりに繋ぎ、岩見沢から札幌のSTVラジオに走って届ける米俵リレーやJA本所前での直売会を通じて「岩見沢」や「いわみざわ産農畜産物」をPRする活動です。

令和7年度の情熱直送便は「米俵リレー」をメインに行う事を計画し、実行委員会を立ち上げました。「米俵リレー」のほか、JA本所前での直売会、STV放送会館前の玄関での小規模な直売会を計画しました。

さらに毎年恒例のSTVラジオでのリスナープレゼントを計画しました。これは年間を通して行うもので8月にはメロン・スイートコーン・たまねぎ、9月にはかぼちゃ・白菜、10月には情熱米・キタノカオリ小麦粉の内容で、農畜産物のプレゼントを行い、リスナーの皆さまからは多くの応募がありました。どれも大変好評で応募はがきにコメントが添えられていたりお礼の連絡が届いたりと私達青年部を激励していただく内容で大変嬉しく思いました。

また、周知活動も積極的に行い、ポスターを作成しJAいわみざわの各支所や施設、岩見沢市内の各所に掲示しました。また9月に行われた情熱フェスティバルにおいて、来場者に米ドンの実演・無料配布とともに情熱直送便のチラシを配布するなど、PR活動を行いました。

直送便当日は天候に恵まれ、秋晴れの中での開催となりました。松野岩見沢市長はじめ、JA役職員の方々など



# 令和7年度



多くの来賓の皆さまが開会式へ応援に駆けつけてくださいました。出発前に行われた入米式では米俵にお米と牛乳を詰め第一走者がスタートしました。

令和7年度の「米俵リレー」はJAいわみざわ本所前からスタートし12号線を通り札幌へ向かう形式で行いました。途中ゲストランナーとして、STVラジオ様よりラジオパーソナリティーの太田黒さんや水稲部会の町田部会長、空知青年部連合会の竹内事務局に走っていただきました。44名の盟友と3人のゲストランナーで繋ぎ最終走者の清水部長がSTVラジオにゴールしました。しかし残念ながら放送時間内にはゴールが叶わず、生放送内でのラジオ出演ができませんでした。ですが木村様・村雨様スタッフの方々が後の仕事があるにも関わらずゴールを見届けていただいた事は申し訳ない気持ちと、嬉しい気持ちが同時に押し寄せてきました。次こそは絶対に時間内にゴールし放送内での感謝の気持ちと、私達が一生懸命作ったお米を届けたいと思いました。

そして今回新しい試みとして、STV放送会館前の玄関をお借りしてお米すくいや玉ねぎつかみ取り等のイベントを開催しました。来客者の中には「ラジオ聞いて来ました」や「青年部の皆さん応援しています」などあたたかい声をいただき大変感動しました。

JAいわみざわ本所前イベントでは新米や共選野菜、加工品を販売し大盛況のうちに終了することができました。またこども食堂の同日開催、岩見沢農業高等学校の生徒の皆さまにもご協力をいただきイベントが華やかなものとなりました。

また子供縁日や缶バッチ制作、トラクター展示・籾摺り体験など子供たちに農業の魅力や楽しさを知ってもらえる貴重な機会となりました。女性部の方々にはキタノカオリを使用したパンを調理していただき、試食用に無料配布を行いました。




リレーのみならず、直売会やプレゼント企画も大盛況のうちに終えることができたのは皆さまのご協力のおかげです。JAはじめ、各関係機関のご理解・ご協力に深く感謝を申し上げ、令和8年度以降もさらに盛り上げていけるように尽力したいと思います。ありがとうございました。

# 道外視察研修

令和7年度の道外視察研修は11月10日から13日の4日間で行いました。

1日目は株式会社キューレイに視察に伺いました。

キューレイは「おいしさ技術で感動と幸せを」を企業コンセプトに掲げ、冷凍チャーハン・今川焼・たいやきを主力商品として製造しており、JAいわみざわ管内のきらら397などを〝本格炒め炒飯〟に使用しています。将来的にきらら397に代わる品種そらきらりでも素材選定で高評価を得ており、キューレイを含むニチレイフーズグループで使用していく方針とのことでした。見学後はキューレイで製造している炒飯と今川焼の試食をさせていただきながら、製造過程の疑問点や今川焼の中身の違い





で生地を変えている点、昨今の米の高騰についてなど意見交換を行いました。中でも炒飯ファンが集う交流イベントで集めたユーザーの声をもとに毎年リニューアルした炒飯を数種類開発し、ニチレイフーズの社長が商品化する炒飯を決めているというお話が特に印象的でした。

2日目は熊本県菊池地域有機支援センター合志に視察に伺いました。

菊池地域は畜産を中心に野菜、米など多様な農産物が生産されており、畜産で出る資源を活かし、環境に配慮した耕畜連携の取り組みとして牛糞ペレットたい肥の利用普及に取り組んでいます。

ペレットたい肥は原肥の受け入れ後、雑菌や雑草の種子を死滅させる工程を経て、発酵(1カ月間)、切り返し(約4カ月間、月2回)、乾燥(水分30%以下)の後、鶏糞などを混合・成分調整をしてペレット化します。その後、冷却装置で水分が20%以下になるように冷却乾燥させ、袋詰めをして各農家へと配送されていきます。

ペレットたい肥は、1袋770~900円程度と安価であり、低水分のため長期保存が可能であること、散布が容易であることなどのメリットがあります。耕畜連携で生産コストの低減・土づくりなどに取り組めるとてもよい環境だなと思いました。岩見沢ではたい肥の手軽な入手は難しいと思いますが、それぞれの経営を見直すよい機会になりました。

3日目はJA糸島青年部に視察に伺いました。

JA糸島青年部の盟友が代表を務める㈱井田では、水稲の収穫後に小麦を播種し、田植え前に収穫するというスケジュールで水稲・小麦の二毛作を実践しています。土地利用型の二毛作ならではのお話のほか高温対策・防除体系の課題



や作況を伺うことができました。また、乾燥機・籾摺り機・精米機を所有しており、月平均約3・5tの白米を自ら飲食店等に販売しており、その意欲的な経営に刺激を受けました。

その後の盟友との意見交換ではJA糸島青年部の農産物PR活動や食農教育のお話が印象的でした。農産物直売会「ちかっぱ糸島」や農業体験イベント「きちゃなっせい、糸島」を開催しているほか、「コメンジャー」というスーパーヒーローの着ぐるみを作成し、地域イベントでのPR活動や食育活動で大活躍しているとのことでした。一方で、各活動のマンネリ化を感じており、当JA青年部と共通する悩みや課題を抱えていると感じました。そのほか、岩見沢地区と糸島地区での農業機械や使用農薬の違いについて時間ギリギリまで意見交換を行うなど農業者・青年部の



盟友として通じ合うものを随所に感じられる有意義な意見交換会でした。

最終日は太宰府天満宮を訪れました。学問の神様として知られる菅原道真を祀る神社で、全国の天満宮の中心的な存在です。境内には梅の木が多く植えられており、名物菓子の梅ヶ枝餅(うめがえもち)が参道沿いにたくさん売られています。また、境内数か所に大小の御神牛(撫で牛)が飾られており触れることで様々なご利益があると信じられており、盟友も各々の思いを込めて御神牛に触れていました。

最後になりますが、支部の垣根を越えてこのメンバーで道外研修に行くことができ貴重な経験ができました。青年部本部役員の皆さま、事務局のJAいわみざわ様、各関係団体の皆さまに改めて感謝いたします。

# AMS2025



令和7年度のAMS2025は、例年どおり1泊2日の日程で開催しました。滝川市にある北興化学工業株式会社とホクレン滝川種苗生産センターの2か所を視察し、普段なかなか見ることのできない農業関連施設や製造現場を見学しました。参加した盟友の皆さんにとっても、多くの学びと交流を得られる有意義な研修となりました。

北興化学工業株式会社では、水稲用除草粒剤の特長や試験結果、製品開発に対する考え方などについて詳しく説明していただきました。また、工場内では原料から製品が完成するまでの製造工程や品質管理の様子、完成した製品が保管されている倉庫も見学させていただきました。普段、私たちが何気なく使用している農業資材が、多くの工程と厳しい品質管理を経て製品化されていることを知り、改めて安全・安心な農業を支える企業の努力を実感しました。参加者からも多くの質問が出され、関心の高さがうかがえる場面も見られました。

続いて訪問したホクレン滝川種苗生産センターでは、水稲・小麦・大豆の種子生産体系や、ゆり根のりん片増殖事業について説明を受けました。また、施設内では野菜や花きの播種から育苗、出荷までの工程を見学し、品質の高い種苗を安定して供給するための工夫や管理体制について学ぶことができました。普段は目にすることの少ない施設を見学することで、農業の基盤となる種苗生産の重要性を改めて感じることができ、今後の営農にも参考となる内容ばかりでした。

今回の視察研修では、製造現場と種苗生産施設という異なる分野を見学しましたが、どちらにも共通していたのは「より良い農業を支えたい」という強い思いと、高品質な製品づくりへのこだわりでした。現場で働く方々のお話を直接聞くことで、新たな知識を得るだけではなく、自分たちの農業を見つめ直す良い機会にもなりました。盟友の皆さまにとっても、多くの気づきや刺激を受け、今後の営農や青年部活動につながる大変実りある研修になったことと思います。

視察終了後は旭川トーヨーホテルにおいて懇親会を開催しました。懇親会には、いわみざわ農協の引頭組合長をはじめ、役職員の皆さまにもご参加いただき、終始和やかな雰囲気の中で交流を深めることができました。普段は支部ごとに活動することが多い盟友同士も、支部の垣根を越えて会話を楽しみ、新たなつながりを築く貴重な時間となりました。また、懇親会の途中には恒例のビンゴゲームを行い、電化製品や関係各所よりご協賛いただいた景品をプレゼントしました。景品が当たるたびに大きな歓声が上がり、会場全体が笑顔に包まれるなど、大いに盛り上がるひとときとなりました。

本部事業の締めくくりとなるAMS2025は、参加していただいた盟友の皆さまをはじめ、事務局、JA関係者の皆さま、そして快く視察を受け入れてくださった北興化学工業株式会社、ホクレン滝川種苗生産センターの皆さまのご協力により、無事に終えることができました。この場をお借りして、改めて心より感謝申し上げます。今回の研修で得た学びや交流を、それぞれの地域や日々の営農活動に生かしていただければ幸いです。令和8年度も多くの盟友の皆さまに参加していただき、学びと交流を深められる充実したAMSとなることを期待し、AMS2025の活動報告といたします。



## 令和8年度 空知管内JA青年部

# 道外農業視察研修

JA空知青年部連合会が主催する空知管内JA青年部道外農業視察研修が、2月17日から2日間の日程で開催され、空知地区の盟友16名が参加しました。

初日はJAグループと農業政策の関わりについてのオリエンテーション、その後は東野秀樹参議院議員との要請懇談会を行いました。「なぜ農政運動をするのか?」を主題としたオリエンテーションでは、農業政策が営農に与える影響や政策の決定プロセスについて学び、農業界から国政に議員を送ることの重要性を知ることができました。JA青年部においても農政運動は重要なことであり、問題解決への行動指針が示されるポリシーブックは、その運動において重要な役割を果たすものであると改めて確認しました。東野議員との要請懇談会では、ポリシーブックの進呈、道内各地区の課題や問題点などについて意見交換を行いました。担い手不足、食農教育、米価問題と消費者理解などの意見が交わされ、東野議員による国政報告では、農業者のために尽力されている姿に大変心強さを感じました。



2日目は埼玉県にある中森農産株式会社を視察しました。埼玉県加須市を拠点に全国で農業を展開する大規模生産法人で、「農業がもたらす価値を最大化し人々の食を守り抜く」という理念のもと、水稲、小麦、大豆、そばなどの穀物を中心に生産しているとのことでした。企業説明では、後継者問題による農業経営体数の減少や耕作放棄地の増加によって国内生産量が需要に対して不足することの懸念や、食料安全保障や地方創生の観点から全国展開を目指す経緯、また、そのための人材育成、ロールモデル形成についてなど聞くことができ、普段の営農では考えることの無かった視点からの導入で大変興味深い内容でした。

午後からは練馬文化センターで開催された全国JA青年大会に参加しました。

同大会は2日間開催され、全国から千人以上もの盟友が集っている光景は壮観でした。活動実績発表では、東北・北海道ブロック代表のJAたいせつ青年部が最優秀賞に選ばれました。「想いで繋ぐ田んぼアート～父の世代から私たち世代へ」と題した発表は、20年目を迎えた田んぼアート事業が、世代が変わるにつれ忙しさから事業継続の負担が増したこと、事業を続けるうえでの問題に対して、ポリシーブックに掲げる課題につなげることで事業を見直したことが述べられており、全国の青年部の気迫が感じられる大会でした。




最終日の3日目は、大会終了後にJA全農にて生産管理システムとスマート農業システムの展望についての研修を行いました。耕作面積の増加に伴う管理負担の軽減、ICTやロボット技術との連携による作業の効率化やコスト削減など、大変参考になる内容でした。



本研修では、農業情勢や視察先の企業など、新たな知見を得ることができました。また、研修に参加した他単組の盟友との交流や全国の青年部の発表など、青年部の活動における熱意や現状の課題などを共有することができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。このような機会を与えていただいたJAいわみざわ並びに関係機関の皆さまに感謝を申し上げ、本研修の報告といたします。

# JAいわみざわ管内のスマート農業について



## 自動操舵機器

JA管内ではスマート農業と呼ばれる技術のうちRTKを活用した自動操舵機器の利用が増えています。

RTK（Real Time Kinematic）は衛星測位システムGNSS（GPS（アメリカ）、GLONAS（ロシア）、BeiDou（中国）、Galileo（EU）、みちびき（日本）など）から位置情報を取得し、基準局あるいは電子基準点との位置補正データをもとに正確な位置情報を得る技術で、誤差範囲は2～3cmと言われています。これにより、耕起や播種、肥料・農薬散布、収穫作業など乗用農作業機での作業精度向上が可能です。

## ドローン



自動操舵機器と同様にRTKを活用したドローンの利用も増えています。

RTKを活用しているため精度の高い作業ができるのはもちろん、融雪や降雨後の圃場への立ち入りが難しい時期でも空散による肥料・農薬散布ができるため、適期を逸しない作業が可能です。

また、センシング（衛星やドローン等で広範囲を撮影する技術）に活用し、可変散布に応用することも可能です。



## 可変散布機

センシングにより得られた生育マップを活用し肥料や農薬の散布量を自動調整するインプルメントを利用している方が増えています。

自動操舵機器を搭載した乗用農作業機と接続することで散布ムラを抑え、必要な箇所に適切量を散布することが可能です。

## 農作業の電子管理



栽培履歴「apras」や岩見沢市農業気象サービス、位置情報サービスを活用した農作業自動記録、営農支援システム「Xarvio」、㈱クボタの営農支援システム「KSAS」など、これまで紙に書き留めていたような記録をデータで格納・活用できるシステムです。

中には、自動でデータを作成してくれるものもありますし、格納したデータや気象データをもとに病害虫の発生予測や開花期・収穫期、収量予測などの機能があるものもあります。また、格納データを自動操舵機器、ドローン、可変散布機、ロボットトラクター、コンバインなどに活用することも可能です。

## スマート機器の導入にあたって

スマート農業は「農業従事者の減少」「担い手不足」「経営面積の増加」など農業諸課題に対応できる技術です。自身の経営に有効な機器やシステムを導入することで作業時間の削減、精神的・身体的負担の軽減などより効率的な農業経営の実現が期待されます。

スマート機器は注目され始めた頃と比べて安価で高性能な機器が続々と販売されていますが、それでもやはり高額です。自身の経営の中で汎用的に利用できるものなのか、費用対効果はどの程度なのか、所有している機器との互換性はあるのかなど、検討を重ねたうえで導入することが重要です。

JAではスマート機器の販売はもちろん自動操舵機器・ドローンに必要なRTK通信（Ntrip方式）にかかる申込みを受付けています。また、管内各地にはすでにスマート機器を導入して営農している生産者も多数いらっしゃいますので、初めての方も安心して導入できる環境が整っているのではないでしょうか。

**スマート機器の購入にかかるお問い合わせ　資材部門　☎0126-22-3426**
**RTK通信（Ntrip方式）にかかるお問い合わせ　農業振興部門　☎0126-22-6924**

# 令和8年度 執行部



（後列）　理事　櫻井　和也　　理事　池田　拓馬　　理事　森　洋輔

（前列）　副部長（事業部会長）松林　亮太　　副部長（組織部会長）辻　貴将　　副部長（会計）横山　紘貴　　部長　宮嶋　遼　　代表監事　高柳　京祐　　監事　保科　和将

## JA青年組織綱領

**1. われらは、農業を通じて環境・文化・教育の活動を行い、地域社会に貢献する。**
JA青年組織は、農業の担い手として地域農業の振興を図るとともに、農業を通じて地域社会において環境・文化・教育の活動を行い、地域に根ざした社会貢献に取り組む。

**1. われらは、国民との相互理解を図り、食と農の価値を高める責任ある政策提言を行う。**
人間の「いのちと暮らし」の源である食と農の持つ価値を高め、実効性のある運動の展開を通じて、農業者の視点と生活者の視点を合わせ持った責任ある政策提言を行う。

**1. われらは、自らがJAの事業運営に積極的に参画し、JA運動の先頭に立つ。**
時代を捉え、将来を見据えたJAの発展のため、自らの組織であるJAの事業運営に主体的に参加するとともに、青年農業者の立場から常に新しいJA運動を探求し、実践する。

**1. われらは、多くの出会いから生まれる新たな可能性を原動力に、自己を高める。**
JA青年組織のネットワークを通じて営農技術の向上を進めるとともに、仲間との交流によって自らの新たな可能性を発見する場をつくり、相互研鑽を図る。

**1. われらは、組織活動の実践により盟友の結束力を高め、あすの担い手を育成する。**
JA青年組織の活動に参加することによって、個人では得られない達成感や感動を多くの盟友が実感できる機会をつくり、このような価値を次代に継承する人材を育成する。

## 令和7年度 組織部会報告

部会長　高柳　京祐
理事　辻　貴将

令和7年度の組織部会は「青年部員としての意識の高揚を図るとともに、盟友同士の親睦を深める」ということを目標に1年間活動してきました。

3月の営農セミナーでは、「地域に適した小麦の営農体系と栽培技術」をテーマとし、株式会社安藤農産代表取締役安藤雄介氏、有限会社濱本農場代表取締役濱本壮男氏、大槻賢紀氏を講師に招き営農体系や栽培技術を学んだほか、活発な質疑応答もあり大変有意義なセミナーになりました。

6月には部員親睦会を行いました。ミニバレーボール大会と焼肉を行い、盟友・JA役職員の皆さま合わせて100名近くの参加があり、交流・親睦を深めることができたと思います。

11月は道外研修とAMS2025を実施しました。道外研修では、九州方面において株式会社キューレイや熊本県菊池地域有機支援センター合志で研修を行い、JA糸島青年部の方々と意見交換や交流会も行いました。3泊4日の研修の中で視察や宴会も含めて参加者全員有意義なものになったと思います。

AMS2025は、1泊2日の宿泊の形で旭川で行いました。視察先には、滝川市の北興化学工業株式会社北海道工場とホクレン滝川種苗生産センター視察を行いました。製造工場を見学したり職員の方のお話を聞いたり実りある研修となりました。

令和7年度は、大きな問題も無く計画通りに活動することができました。令和8年度もより良い活動ができるよう努力してまいります。

最後に、令和7年度の事業を行ってきた本部役員・事務局の皆さま、そして参加していただいた盟友の皆さま、ご協力いただいた各関係機関の皆さまに心より感謝を申し上げ令和7年度の組織部会の活動報告とさせていただきます。

## 令和7年度 事業部会報告

部会長　保科　和将
理事　松林　亮太
理事　横山　紘貴

令和7年度の事業部会は、機関誌『情熱』の発行や青年部ホームページ・フェイスブック・インスタグラムの管理編集、情熱直送便を実施しました。

機関誌『情熱』に関しては62号を2025年4月に発行しました。各支部の編集委員の協力をいただき、今年度の青年部活動や営農に関する情報を盟友の皆さまにお届けできたと思います。

ホームページ編集やSNS管理につきましては、青年部活動が活発に行えたことで発信する機会が増え、広報活動が賑やかなものになり、消費者の方々に広く発信することができたと思います。

情熱直送便については、実行委員会を立ち上げ、例年通り「米俵リレー」をメインとして、JAいわみざわ本所前での直売会を開催することを目指し準備してきました。情熱直送便当日は青天でしたが、米俵リレーは残念ながら、ラジオ放送中にゴールすることが叶いませんでした。しかし、STVラジオまで米俵を繋ぎ沿道の方々やラジオを聞いている方に広く私たち青年部の活動をPRすることができました。直売会は、新米のPB米、野菜や加工品を販売し盛況でした。また、こども縁日などの催しも一緒に行ったため、お客様には大変好評で盛況のうちに終えることができました。

最後になりますが、盟友や事務局・各関係機関の皆さまのご協力を得て無事活動を終えることができました。この場をお借りしてお礼申し上げ事業部会の活動報告とさせていただきます。

# SNOW MESSAGE 2026




実施場所：株式会社 北豊商建

## 令和8年 勇退者

**岩見沢支部**

安藤 雄介
坂野 孝太
中山 一政
床岡 裕太

**北村支部**

鈴木 秋吉
梶 俊太郎
間島 尚行
小林 亮介
長内 勇希
葛西 正和
藤原 周太
今田 記正
永桶 晃弘

**栗沢支部**

椎名 俊文
中山 大輔
伊藤 聡
澤井 翔吾
佐々木高大
坂口 祐介




## 編集委員

事業部会長　松林 亮太
理事　池田 拓馬
理事　櫻井 和也
岩見沢支部　石井 敬也
北村支部　尾田 陸斗
栗沢支部　山本 将孝